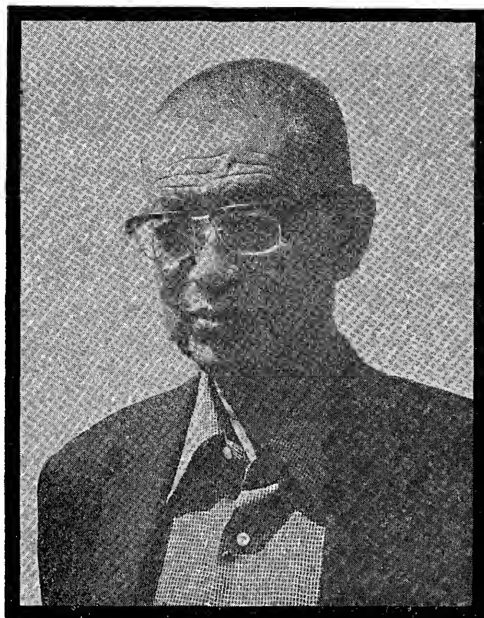
佐々木一郎氏の霊に捧ぐ



Ichiro SASAKI (1911～1983)

本誌編集員佐々木一郎氏は3月29日に急逝されました。その数日前まで元気にしておられたので，全く信じられないような悲報でした。

佐々木氏は昭和19年本誌20巻から56巻（昭和56年）まで実に37年間の長きにわたり，編集兼発行者として重責を果されました。特に戦時中には朝比奈主幹を助けて多くの困難をのりこえ，戦後速やかに平常通りに刊行されるよう努力され，今日の本誌の基盤をかためられました。

氏は誠実そのもののお人柄で，植物を心から愛好されて各地を歩き廻られ，日本の薬草についてその原植物の生育地や栽培の実情などを最もよく知っておられる方でした。薬学・植物学について広い学識をもっておられましたが，晴がましいことは大嫌いな性格で，論文なども御自身で書かれることは好まれませんでした。しかし，他人のためには自分のことのように全力をあげて援助されるのが常で，佐々木氏に研究上御世話になった薬学者・植物学者は数多く，氏の功績は誠に大なるものがありました。

平常は口数の少ない方でしたが，植物の話になると眼をくるくると輝やかせながら楽しそうによく話をされ，最後まで若々しかった佐々木氏のお姿をもう見ることができなくなり残念でたまりません。

ここに佐々木氏に対し生前の多年にわたる御厚誼に改めて心から御礼を申しあげると共に，御逝去に対し深く哀悼の意を表し御冥福を祈ります。

編集員代表　原　寛